インフルエンザワクチン接種後の透析患者インフルエンザ発症例について

大垣徳洲会病院　透析センター
内科[1)]

○高橋　はるみ　　清水　敏代　　旧井　理沙
箕内　彩乃　　石司　るみ子　　白木　美春
中村　裕子
野口　享秀[1)]

Ogaki　Tokushukai　Hospital

はじめに

・インフルエンザは、突然の発熱や全身の倦怠感が特徴とされている。

・伝染性が非常に強く、症状が激しく重症化しやすい。

・普通の風邪とは区別すべき！

・透析患者は易感染状態であり、重症化しやすいので注意。

・インフルエンザワクチンの接種により予防している。

H24年11月～H25年3月にかけて インフルエンザ罹患患者の特徴

H24.11月～H25.3月にかけて

インフルエンザ罹患患者･･7名/84名(8.3%)

「咳」や「喉がイガイガする」などの感冒様症状

微熱や平熱の方が多い(38℃以上は1名のみ)

7名とも、インフルエンザワクチンを平成24年11月に接種

平成25年11月～平成26年3月にかけてのインフルエンザ罹患患者

	年齢	性	透析歴	主訴	発症日	インフルエンザ型	感染経路
T．T.	83歳	女	3年	咳 （37.0℃）	1月10日	A型	夫
O．M.	62歳	男	2年	咳 発熱なし (36.0℃）	2月25日	B型	パチンコ店
T．K.	89歳	男	11年	咳 発熱 (38．8℃）	3月4日	A型	不明

N=89　(3.4%)

インフルエンザ陽性者に対して

①最も大切なのはマスク着用！（咳エチケット）

②透析室への入退室経路を分け、個室での隔離透析

③透析室への入退室時間の調節

④家族による送迎の依頼（可能な限り）

⑤透析毎のシーツ交換

⑥個室のアルコール消毒

⑦ベッドやコンソールは、次亜塩素酸Na消毒

発熱時
患者様　出口

症例

T･K　76歳　　男性

病歴:

平成25年11月28日に他院にて慢性腎炎(ネフローゼ型)にて透析導入され、平成25年12月4日に当院に転院された。

平成26年2月1日に発熱39.5℃、咳は軽度あり。

インフルエンザA型陽性であった。

当院透析室では毎年11月中旬にインフルエンザワクチンを全員(スタッフを含め)に接種している。

本症例は12月上旬に転院されておりワクチン接種の有無を確認しなかった。

反省点として、今後11月～3月の転入患者に対してインフルエンザワクチン接種の有無を確認する必要がある。

考察

①ワクチン接種をしたことで安心している。

②透析患者自身が易感染状態である事の自覚不足。

③透析患者とその家族達の認識不足。

④スタッフ側も透析患者は感染予防を理解している と思い込んでいた。

まとめ

- インフルエンザワクチンは感染予防もあるがむしろ重症化防止でもあることを理解し患者の再教育をする。

- 透析患者だけでなく、その患者家族への再教育も必要。

- 感冒様症状であっても、流行期にはインフルエンザに罹患している可能性が高いので早期診断し、透析中隔離・抗インフルエンザ薬投与を行い、他の透析患者や家族さらにスタッフへの感染防止に努めることが重要です。

謝辞

日本臨床内科医会インフルエンザ研究班班長
河合直樹先生のご助言に深謝いたします。

第59回　日本透析医学会
ＣＯＩ開示

筆頭発表者名：　高橋　はるみ

演題発表に関連し、開示すべきCOＩ関係にある企業などとして、

①顧問：	なし
②株保有・利益：	なし
③特許使用料：	なし
④講演料：	なし
⑤原稿料：	なし
⑥受託研究・共同研究費：	なし
⑦奨学寄付金：	なし
⑧寄附講座所属：	なし
⑨贈答品などの報酬：	なし

Ogaki　Tokushukai　Hospital